江戸・東京
水を愉しむ文化都市

上野・本郷・後楽園めぐり

不忍池
東京大学育徳園心字池（三四郎池）
金魚坂
樋口一葉旧居跡の井戸
小石川後楽園

東京文化資源区案内 3　日本語版

水で辿る 江戸・東京の文化

地勢と水路から誕生した水都

東京の前身、江戸は「水の都」でした。地勢と水路を生かし、名勝を模した景観を配している庭園が築かれました。また、鉄道が誕生する前、水運が都市の経済の中で中枢的な役割を果たしています。水辺に生活空間、軽産業、遊興地も生まれ、「水」から離れて、近代以前の東京を語ることはできません。このルートで、江戸時代から現代に続く「水」の重要性を再確認しに行きましょう。

庭園と文学を手掛かりに

江戸には多くの大名屋敷があり、池泉回遊式である庭園には、大きな池が必要とされました。これらの池は自然の川や池を巧みに利用し、中島や築山なども配置して、京都や中国を連想させる景観作りがなされました。こうした庭園は大名たちの美的趣味と豊かな想像力を反映しています。また、夏目漱石の『三四郎』や森鴎外の『雁』をはじめとする明治時代の文学作品も上野不忍池周辺や加賀藩の名残である心字池（三四郎池）に焦点を当てて、現実と虚構を織り交ぜた時代の物語を作り出しました。庭園と文学を二つの手掛かりとして、江戸・東京という水都の今昔を重ねながら出かけてみましょう。

上／Shinobadzu(Pond) Uyeno Tokio by Kimbei, Kusakabe(1880-1890),New York Public Library
表紙の絵／「名所江戸百景 上野清水堂不忍之池」歌川広重（初代）,(1856年)。京都の風景に見立て建てられた上野清水観音堂の図。満開の桜に囲まれている朱色の清水堂、その奥に広がる不忍池、弁天島につながる参道と大勢の花見客の姿が描かれており、江戸の名所としての上野をあのままに表現している。

上野・本郷・後楽園をめぐる「水の都」ルート

2 時間で「水の都」を体験する

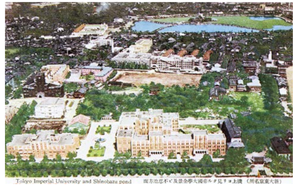
上野・本郷・後楽園エリアは豊かな地形と水路に恵まれており、寛永寺の放生池でもあった不忍池や大きな池を有していた江戸の名園が江戸時代から現在に伝えられています。東京大学本郷キャンパス内旧加賀藩庭園育徳園（「三四郎池」スポット 2）と旧水戸藩小石川後楽園（スポット 5）は大名屋敷の名残の好例です。また、多くの明治期の学者がこの周辺に暮らしていました。彼らは坂を上り下り、細い路地を通って、現在暗渠化されている川のそばで生活し、創作や研究活動に励んでいました。「水」をテーマに、このエリアの江戸名園と学者が暮らした下宿町を散策しにいきましょう。

●「水の都ルート」概要

距離……約 3.5km　**所要時間**…約 2 時間

始点「不忍池」までのアクセス
- JR、東京メトロ銀座線・日比谷線「上野」駅から徒歩 10 分
- 京成本線「上野」駅から徒歩 10 分
- JR「御徒町」駅から徒歩 12 分

終点「小石川後楽園」付近で利用できる駅
- 都営大江戸線、JR 中央・総武線、東京メトロ東西線・有楽町線・南北線「飯田橋」駅
- 東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園」駅



「(新大東京名所) 機上より見た帝国大学全景及び不忍池」, 絵葉書, 1929, 林丈二所蔵。空き地（現在東京大学医学部附属病院）の手前に育徳園（三四郎池）、後ろに不忍池も見える。

文京一葉忌の様子（写真提供／文京区）

●各施設の主な行事

日付は WEB サイトなどでご確認ください。

5 月 5 日

金魚祭　金魚坂

愛好家による金魚の展示と即売会のほか、金魚すくいや講演会、陶板への金魚の絵付けワークショップなど一般向けのイベントも開催されます。

5 月中旬～下旬の土・日曜日

五月祭　東京大学本郷キャンパス

東京大学の学園祭である五月祭の起源は 1923 年に行われた第一回大園遊会に遡ります。現在は、学生たちが自主的に企画した学術・文化活動に触れることができます。

9 月の巳の日(巳の日…弁財天と縁のある日。12 日ごとに巡ってくる)

巳成金大祭　不忍池弁天堂

年に一度の縁日として本尊を開帳します。この日に金・銀・銭を紙に包んでおけば富むという故事に由来します。

11 月 23 日

文京一葉忌　法真寺

約 10 年間を文京区で過ごした樋口一葉を偲んで、毎年命日にあたる 11 月 23 日に一葉ゆかりの法真寺にて文京一葉忌の法要のほか、一葉作品の朗読などを実施。

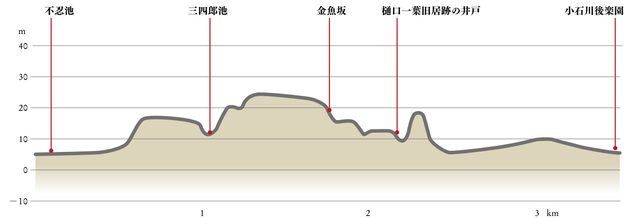
11 月中旬～ 12 月上旬

深山紅葉を楽しむ　小石川後楽園

イロハモミジやハゼ、ケヤキ、イチョウなどが紅葉し、特に「通天橋」付近は多くの木々が彩り、絶景ポイントとして知られます。

多彩な地形が産み出した大名庭園と学者の町

この地域は丘と谷が交差し、水利にも恵まれています。不忍池の北西と つながっていた藍染川、本郷台地と白山台地の谷間を流れていた東大下水、白山台地と小石川台地の間の小石川（千川）は暗渠化され、井の頭・善福寺・妙正寺池を水源として神田川に繋いでいた神田上水は廃止されました。現在では、マンホールの上で耳を澄ませば聴こえてくる地下を流れる水の音や、また印刷所など軽産業業拠点の存在から「水路」の形跡を確認するばかりですが、このルートを辿ることで、かつて「宴会空間」であった大名庭園と下町の生活空間がいかに水と密接に結びついていたかを感じ取ることができます。



このパンフレットで紹介した主な施設・スポット

不忍池

住所〒 110-0007
東京都台東区上野公園池之端 3
電話番号03-3828-5644
入場料無料
開場時間5:00～23:00（弁天堂9:00～17:00）

東京大学 育徳園心字池（三四郎池）

住所〒 113-8654
東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学本郷キャンパス内
入場料無料
開場時間7:00～18:00

金魚坂

住所〒 113-0033
東京都文京区本郷 5-3-15
電話番号03-3815-7088
開店時間11:30～21:30(土日祝20:00まで)
定休日月曜・第3火曜(祝日の場合は営業、翌日振替休日　年末年始12/30-1/4)
WEB http://www.kingyozaka.com

樋口一葉旧居跡の井戸

住所〒 113-0033
東京都文京区本郷 4-32・31
電話番号03-5803-1174（文京区アカデミー推進課観光担当）
WEB http://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/spot/ato/ichiyo.html

小石川後楽園

住所〒 112-0004
東京都文京区後楽 1
電話番号03-3811-3015
入園料一般 300 円
開園時間9:00～17:00（入園は16:30まで）
WEB https://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index030.html

協賛企業

朝日信用金庫
Google Japan G.K.
JTB 感動のそばに、いつも。
新日鉄興和不動産
ZENRIN
Tanseisha
dentsu
株式会社 東京ドーム
野村不動産
HAKUHODO
都市に豊かさと潤いを 三井不動産
三菱地所
MURAYAMA 株式会社ムラヤマ
安田不動産
YKK

UP TOKYO を歩こう

東京文化資源会議がつくる東京都心北部の新たな魅力

東京文化資源会議は、東京都心北部（東京文化資源区、通称 UP TOKYO）の豊かで多様な文化資源に注目し、その発掘・活用を通じて新たな文化資源の再創造につなげることを目的とする、産官学民の有志からなる任意団体です（2015 年 4 月発足）。

本パンフレットは、その活動の一環として、この地域内のユニークな文化資源を体験できる、ユニークなルートを紹介するシリーズのひとつとして作成しました。

東京文化資源区案内 3
「江戸・東京　水を愉しむ文化都市　上野・本郷・後楽園めぐり」
発行・問い合わせ先◎東京文化資源会議
［住所］〒 101-0054 千代田区神田錦町 2-1 ［電話］03-5244-5450
［FAX］03-5244-5452 ［メール］info@tohbun.jp
［WEB］http://tohbun.jp/

文・写真／ Sam Holden、湯夢斐、遠坂裕紀子、柳与志夫
デザイン／スタジオ・ボット
2018 年 8 月 25 日発行／ 7,000 部／両面 4 色／マットコート 90kg

「東京文化資源区案内」シリーズ
Vol.1 ／江戸・東京の精神文化を紐解く　湯島・神田・秋葉原めぐり（2017 年 4 月 1 日発行）
Vol.2 ／江戸・東京　知の交差路 " グレーターアキバ "　秋葉原・神田・神保町めぐり（2018 年 7 月 25 日発行）

見る、聞く、想像する

水でたどる東京の庭園と文学

地形と水路で織りなす水都江戸・東京で
大名庭園、生活空間と文学の世界が展開しています。
「水」にまつわる都市の歴史をご紹介します。

1 昔々 江戸は水の都！

▶「水」なしに、江戸を語れない

東京の前身・江戸は、東京湾を望む武蔵野台地の突端に作られ、掘削が整備された「水の都」でした。その水路網がいかに豊かだったのかは江戸後期から明治期にかけて制作された鳥瞰図から何えます。商売、軽産業、遊興で活気溢れる水辺の情景は、明治以降の都市の成長に伴い、池の埋め立てや水路の暗渠化により徐々に失われました。

このガイドブックでは、現在の上野・本郷・後楽園エリアで、五感で体験できる「水」をテーマとした散策ルートを提案します。このルートに沿って、目・耳・想像力を働かせ、江戸の大名がいかに水を愛して庭園に池泉を配していたのか、そして明治の文豪たちがいかに文学空間と生活空間を織り交ぜて日常と非日常のせめぎ合いを演出したのかを旅しましょう。

現在、上野清水観音堂の前の階段から不忍弁天堂方面を見下ろす風景。池の周辺はビルや木々に囲まれている。

2 庭園は江戸のパーティー会場

▶江戸庭園の中心としての池

ご紹介するルートには三つの池が登場します。それは、上野公園内の不忍池、東京大学本郷キャンパス内の育徳園心字池（通称「三四郎池」）、それから小石川後楽園内の大泉水です。不忍池の面積は池としては都心第一を誇ります。東京大学本郷キャンパスと小石川後楽園は、かつての加賀藩と水戸藩の大名屋敷を構えていた場所です。自然環境を巧みに利用し、藩主たちの好みに合わせて手を加え、池の中には庭園の中心的要素となる中島を築いたりもしました。

▶「見立て」による京都・中国の風景の再現

地形と水脈が違うように、三つの池はそれぞれ異なる水源を持っていますが、それぞれの造営時期（寛永期、17 世紀前半）や、京都・中国の風景を意識したという設計コンセプトは類似するところがあります。今日、不忍池は庭園としての認識が薄いようですが、東京大学の原祐一氏の史料調査及び遺跡発掘によれば、水戸藩駒込邸（現在東京大学浅野と弥生キャンパス周辺）は「背山臨水」という風水の考えに基づき、不忍池を借景していたということが明らかになっています。こうした庭園は、大名や家臣たちの私的空間としてのみならず、将軍の接待や他の大名家との付き合いでも客会の場として利用されており、江戸のパーティー会場として公的・政治的な空間を提供していました。

▶きっかけは「参勤交代」

江戸にはかつて六百を超える大名屋敷があり、庭園の数は数百に及んだといいます。そもそも何故これらの屋敷と庭園が作られたでしょうか。専門家を招き、遠方から奇石や樹木などを調達し、資金と年月をかけた造園工事は実は「参勤交代」の産物です。隔年ごとに江戸での生活と週一度の江戸城登城が義務化されたため、各大名には江戸城付近の敷地（上屋敷）が与えられていました。1657 年の明暦の大火後は、火災からの避難地として中屋敷、下屋敷、それからより広い敷地も与えられるようになりました。京都と比べより規模が大きく、江戸の自然景観を生かしているという特徴を持つ大名庭園が誕生しました。大名たちが労力・費用を惜しまずに作った庭園は、視覚芸術だけでなく、茶の湯・能・狂言・連歌・俳諧、植物・薬・歴史についての学術研究などの文化活動を生み出し、それと同時に鴨狩・乗馬・弓術など武芸・スポーツまでをも取り込んでいた場でもあります。これは「総合芸術」として評価できると造園学者の白幡洋三郎氏は論じます。

『大江戸鳥瞰図』（都立中央図書館特別文庫室所蔵）。この鳥瞰図から、江戸の川筋や海岸線を知ることができる。手前横方向に流れているのが隅田川で、縦に富士山麓まで流れているのが神田川である。右端中央に不忍池も確認できる。

『温故東の花第四篇旧諸侯参勤御入府之図』。江戸後期に長州藩の者たちが高輪から江戸に入る様子が描かれている。参勤行列の規模と移動時の運搬家財の多さがうかがい知れる。図の奥に広がっているのは東京湾。

『江戸切絵図（小石川、谷中）本郷絵図』。手前中央に不忍池が確認できる。その上の本郷台地には加賀藩と水戸藩駒込邸の屋敷の敷地が隣りあい（現在の東京大学本郷キャンパスと弥生・浅野キャンパスあたり）、さらに左上には水戸藩小石川邸も見える。

3 明治文学も水辺にフォーカス

▶「三四郎池」という名前で新たなスタート

総合芸術である庭園の多くは明治以降衰退の一途をたどります。その廃退がかえって神秘さを増すことになったのか、文学の中でも庭園は魅力的に描かれるようになります。特に旧加賀藩邸にある育徳園心字池の場合は夏目漱石の小説『三四郎』の舞台として使われ、現在も『三四郎池』という名で広く知られています。『三四郎』の主人公である東京帝国大学の学生・小川三四郎がヒロイン・里見美禰子（みねこ）と初めて出会うのもこの場所です。文学と現実世界、それから江戸・明治・現代の時空の旅をここでは感じ取ることができます。

▶井戸の近くで産声をあげた明治文学作品

今回のルートで通る本郷エリアは夏目漱石を始め、多くの文豪が住んでいたまちでもあります。五千円紙幣に描かれている女性小説家・樋口一葉もかつて菊坂で貧しい生活を送りながら、世間を驚かすような名作を書いていました。その旧居跡に、彼女が使っていた井戸が残っています。暮らしに近い「水」のもう一つの側面を垣間見ることができます。

夏目漱石（1867-1916 年）、森鴎外と並ぶ明治・大正時代の大文豪。千駄木と西片に住居を構えたことがある。『三四郎』以外に、『吾輩は猫である』『それから』『こころ』の中でもこの周辺が物語の舞台として描かれた。

4 消えた水路・時代を生き抜いた池と金魚店

▶消えた水路

市街地化に伴い、都心中心部の大きな池は埋められ、また水路も蓋をされ、姿を消していきました。不忍池の北側に位置し、三四郎と美禰子がその川沿いを歩いていた藍染川は 1921 年頃から徐々に暗渠化されはじめました。菊坂の川も大正頃まで流れていましたが、時の流れとともに藍染川、東大下水、小石川（千川）、神田上水は姿を消しました。

▶生き残れた不忍池と金魚坂

地元の人々からの強い思いで守られた池と金魚問屋もありました。1945 年、不忍池を埋め立てて野球場にする案がありましたが、地元の人々の反対運動により計画が取り下げられ、このエリアは今も都市のオアシスとして憩いの場を提供しています。菊坂のそばに、このあたりの清冽な湧水を使っている江戸時代からの老舗金魚店（旧吉田晴亮商店）があります。幾つもの困難を乗り越え、現在は金魚問屋に加えカフェの経営もしています。この細い道で耳をすませば、地下をゴンゴンと流れている川の音も聞くことができます。

戦後すぐ菊坂で子供に囲まれていた金魚売りの様子。天秤棒に桶をひっかけて売りに歩いていたという。後ろに「旅館 鳳明館」の看板も見える。（写真提供／金魚坂）

5 庭園の所有の変遷に見る東京の「近代」

▶変わりゆく所有者、変わらぬ「水」の魅力

もう一度大名庭園に戻ってみましょう。本ルートで通る加賀本郷藩邸と水戸藩小石川後楽園の土地は数回に渡って所有者が変わってきました。加賀藩邸は明治維新後、文部省用地そして東京大学本郷キャンパスへと変貌を遂げ、三四郎池、赤門等いくつかの遺構でそのわずかの面影を留めています。小石川後楽園は、明治初期に敷地の一部が兵部省造営司（のちの東京砲兵工廠）となり一時期は陸軍省の所管でもありました。1936 年に東京府の管理下に置かれ、戦後 1952 年に特別史跡及び特別名勝に指定され、現在は都立庭園として公開されています。これらの池と庭園は東京の近代化、都市化過程を生き延び、当時の庭園美を保つ貴重な場所です。ぜひ時代の流れに応じた変貌と、この地の多層性に思いをはせながらご散策ください。

左手・東京ドームの右側（西）に見える緑の生い茂っているのは小石川後楽園。

スポット 1

江戸時代からの名勝地
都心最大の天然池

不忍池

［住所］〒110-0007 東京都台東区上野公園池之端3
［電話番号］03-3828-5644

今回のルートのスタート地点である上野公園不忍池は、都内で最も大きい天然の池です。前史時代にはこの場所は海でしたが、海岸線が後退したのち取り残されて池になったと考えられています。1625年に、江戸城の北東「鬼門」にあたる現在の上野公園の地に、西の比叡山延暦寺になぞらえ、寛永寺が建立されました。徳川家康の側近、天海僧正はさらに、不忍池を琵琶湖に見立て、竹生島を模して弁天島(中之島)を築かせ、弁財天を祀る弁天堂を作りました。江戸時代から、花見、水辺を楽しめる景勝地として文人墨客に愛され、多くの浮世絵にも描かれています。明治期以降、博覧会の会場として使われ、最新科学技術の披露会場、遊興地でもありました。現在、蓮で覆われている蓮池、ボートを漕ぐことのできるボート池、そして上野動物園の中に位置している鵜の池の三つに池は分けられています。

見どころ 不忍池弁天堂

天海僧正が水谷伊勢守（みずのやいせのかみ）勝隆（かつたか）公と相談し、琵琶湖にあった竹生島に見立て弁天堂を建立しました。音楽と芸能の守り神として広く信仰され、当初は参詣するのに船を使用していましたが、江戸時代に島と対岸の間に橋がかけられました。谷中七福神めぐりのひとつでもあります。創建当時のお堂は戦災で消失し、現在の堂は1958年に再建したもので、児玉希望（こだまきぼう）による龍の天井絵が奉納されています。

不忍池弁天堂。撮影／ Toshiyuki Udagawa

撮影／ Toshiyuki Udagawa

見どころ ボート場

ローボート、サイクルボート、スワンボートを漕いで、池を楽しむことができます。

スワンボートでゆったりとした時間を過ごせる。

絵葉書「平和記念東京博覧会 平和塔上より見たる第二会場全景」(1922)。林丈二所蔵。明治時代から昭和初期まで上野は博覧会の会場として賑わっていた。不忍池の周辺にも様々なパビリオンが立ち並んでいた。

見どころ 夏の蓮見

不忍池の蓮見は江戸時代に遡ります。江戸から明治初期の詩壇の重要行事として、観蓮詩を詠む観蓮部は始められたといいます。山本北山、伊澤蘭軒、石田悟堂、大沼枕山、小野湖山、森春濤などの詩人文客がここに集い、詩会を開いていました。蓮の見頃は7月中旬～8月中旬の間で、早朝に咲いて昼以降は閉じてしまうので、夏の朝の蓮見がおすすめです。

不忍池の蓮。夏の早朝に咲く。撮影／ Toshiyuki Udagawa

スポット 2

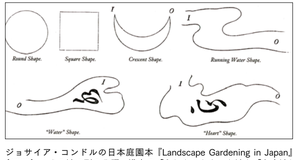
江戸時代に築かれた
日本の最高学府にある深山幽谷

東京大学 育徳園心字池 （三四郎池）

［住所］〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス内

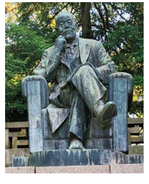
1617年頃、加賀藩前田利常公は大坂夏の陣の褒美として、幕府から現在の東京大学（本郷キャンパスの一部）およびその周辺地を拝領しました。1629年、前田家三代藩主利常の時に、徳川三代将軍家光・大御所秀忠の御成を歓迎するために豪奢な御成御殿、数寄屋、庭園「育徳園」が築かれました。明治期以降に回遊式庭園の要素である築山、氷室、御亭は徐々に失われましたが、池は遺されました。夏目漱石の小説『三四郎』1908年のなかで、主人公・小川三四郎がヒロイン・里見美禰子と初めて出会った場所としてこの池の畔が登場することから、現在「三四郎池」という呼び名で親しまれています。高低差が大きく、深山幽谷の趣を醸しており、廻遊しながら景色の移り変わりを楽しむことができます。池畔は歩きにくい場所もありますので、散策のさいは足元にご留意ください。

『江戸図屏風』（加賀肥前守下屋敷部分）、17世紀、国立歴史民俗博物館所蔵。育徳園の池の周りに奇石、涼亭、様々な植栽が確認できる。



ジョサイア・コンドルの日本庭園本『Landscape Gardening in Japan』(1893)による池の形の分類。漢字の「心」をかたどった池を「心字池」と呼んでいます。日本各地に「心字池」があり、なかでも京都の西芳寺（苔寺）と桂離宮のものが有名です。

見どころ 銅像 濱尾新像



東大総長を二度務めた濱尾新は安田講堂の配置、銀杏並木と正門一帯の整備を行い、「土木総長」とも呼ばれていました。この銅像は彫刻家・堀進二によるもの。

見どころ 赤門

キャンパス内に遺る加賀藩邸のもう一つの遺構。13代藩主前田斉泰（なりやす）が、1827年に11代将軍徳川家斉（いえなり）の娘溶姫（やすひめ・ようひめ）を正室に迎えた際に、この門が建立されました。

東京大学のシンボルの一つでもある赤門。

見どころ 弓道場（育徳堂）

東大総長にもなった建築家・内田祥三の設計により1935年に竣工。育徳園の池の景観の一つになっています。

東大弓道部の弓道場で、時々練習の様子を見ることができる。

スポット 3

350年の歴史を誇る
老舗金魚問屋

金魚坂

［住所］〒113-0033 東京都文京区本郷5-3-15
［電話番号］03-3815-7088

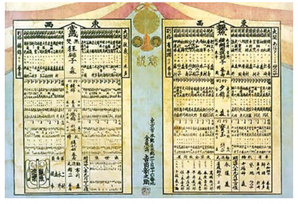
寛文年間（1661-73年）創業の金魚坂は、現在都内でも数少ない金魚専門の問屋です。かつてこのあたりには川が流れていて、800坪ほどの大きな池もありました。その池を養魚場にして金魚問屋を営むようになり、近くにあった加賀藩に観賞用、またお殿様の毒見用の金魚を納めていたそうです。太平洋戦争や1947年の大洪水などの苦難を乗り越えて金魚を守り続けてきました。最盛期となる春先には約40種類、5万匹の金魚が泳ぎます。2000年に、七代目の社長・吉田智子さんが数地内でレストラン喫茶をオープンしました。現在は、金魚を眺めながら、コーヒーや中国茶、ヒーフ黒カレー、懐石御膳を楽しむことができます。

金魚がゆらりゆらりと泳ぐ姿は現代人の心に癒しを与える。

金魚坂は菊坂より一本北にあり、樋口一葉も金魚を見にきていたという。

見どころ 明治時代の金魚番付

明治22年（1889年）、吉田晴亮商店・四代目吉田新之助氏が勧進元で行われた金魚の品評会での番付表。東京大空襲の時に、当時学生であった吉田晴亮が燃え盛る店からとっさに持ち出したもので、今も店頭に飾られています。



相撲にならって順位がつけられた。色や艶、体の模様のほか、泳ぎ姿も採点基準となった。（写真提供／金魚坂）

見どころ カフェ・レストランも金魚づくし

気がつけば、食器、箸置き、窓、あちらこちらが金魚のモチーフで溢れています。多くは七代目の吉田智子さんが買ってきたものです、金魚柄のうちわや風鈴、美術作家の深堀隆介の作品も販売しています。

金魚の装飾やグッズも心を踊らせる。

見どころ 金魚釣り

屋外で金魚すくいや釣り堀での金魚釣りなど、都心では珍しい体験が楽しめます。多く釣れた場合は小赤やメダカと交換して持ち帰ることができます。

1960年代の高度成長期には、金魚を買いに来る花柳界の女性も増えたという。（写真提供／金魚坂）

スポット 4

下町情緒あふれる
明治文学者の生活空間

樋口一葉 旧居跡の井戸

[住所] 〒113-0033 東京都文京区本郷 4-32・31
[電話番号] 03-5803-1174（文京区アカデミー推進課観光担当）

一葉旧居跡のあるこの界隈、路地裏には古い木造家屋、急階段など、昔の暮らしが今に伝えられている。

金魚坂カフェで一休みをとって、そこから南側へ抜けると菊坂にたどり着きます。道の下には現在も川が流れていて、水の流れる音を聴くことができます。周辺は明治文豪のまちとしても広く知られ、所縁のある文学者には夏目漱石、森鴎外、宮沢賢治、坪内逍遥が挙げられます。小説家・歌人として活躍し、五千円紙幣の肖像としても知られる樋口一葉（1872-1896 年）もまた、この地と所縁の深い人物の一人です。一葉が 18 歳から 21 歳まで過ごした場所がここ、本郷菊坂でした。父の死後ここに移り、母と妹を養いながら『闇桜』、『別れ霜』、『五月雨』などの小説を執筆しました。現在も近くに残っている井戸は、一葉が頻繁に、特に洗濯のために使用したと言い伝えられています。周辺は住宅地であるため、散策のさいは住民の方の迷惑にならないように、ご配慮をお願いします。

手押しポンプが付いたこの井戸で一葉が洗濯の水を汲んでいたという。

見どころ

鐙坂、金田一京助・春彦旧居跡

片側が石垣の急な坂道です。鐙（あぶみ）とは、鞍の両脇から馬の脇腹にたらして、騎乗手が足を乗せる馬具です。鐙坂の名前は、昔、この辺りに鐙を作る職人の子孫が住んでいたことからきているという説があります。一葉も鐙坂を歩いたといわれています。鐙坂を登って左側にある建物は、言語学者の金田一京助（1882-1971 年）とその長男春彦（1913-2004 年）の旧居跡です。京助はアイヌ語研究の創始者として、春彦は国語関係辞書の編纂者として広く知られています。水の音以外にも、ここでは作家や学者の足音も聴こえてきそうです。

木造の家と苔むした石垣に挟まれている鐙坂。

見どころ

旧伊勢屋質店

[住所] 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-9-4 ▶地図=★
[電話番号] 03-5803-1174（文京区アカデミー推進課観光担当）

1860 年創業の質屋・伊勢屋に、一葉は生活が苦しくなるたびに通っていました。一葉が亡くなったときには、伊勢屋から香典も届けられたと伝えられています。明治期の蔵・見世・座敷からなる歴史的建造物です。

現在建物所有者である跡見学園女子大学と文京区の協働で、内部も一般公開されている。

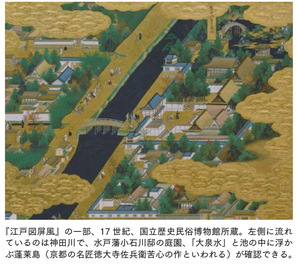
スポット 5

和漢の景色が織りなす
回遊式庭園

小石川後楽園

[住所] 〒112-0004 東京都文京区後楽 1
[電話番号] 03-3811-3015

菊坂を後にして、東京ドームをぐるりと西南方向に回ると、終点の小石川後楽園に辿り着きます。小石川後楽園は、江戸時代初期の寛永 6 年（1629 年）に水戸藩初代藩主・徳川頼房の小石川屋敷の庭として作られ、二代藩主・光圀の代で完成しました。この地は小石川台地の先端にある低地に位置し、神田上水を引き入れた大名庭園の中でも珍しい例です。光圀は作庭に際し、明の儒学者である朱舜水の意見を取り入れました。命名は、范仲淹（はんちゅうえん）の「岳陽楼記」のなかの記述「天下の憂いに先じて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ」（1046 年）から「後楽園」と名づけられました。庭園は「大泉水」という池を中心に、「西湖堤」や「小廬山（しょうろざん）」など中国の名所を模した景観が配され、漢の趣味豊かな「回遊式築山泉水庭園」です。光圀の時代には、身分の高下を問わず希望者に庭園の拝観を許したといわれています。明治時代以降、多くの大名庭園が消失しましたが、ここ後楽園には江戸時代の面影が残っています。往時の大名たちの優雅な姿会や生活の様子を想像しながら、和漢の景色と花見をお楽しみください。



『江戸図屏風』の一部、17 世紀、国立歴史民俗博物館所蔵。左側に流れているのは神田川で、水戸藩小石川邸の庭園、『大泉水』と池の中に浮かぶ蓬莱島（京都の名匠徳大寺佐兵衛苦心の作といわれる）が確認できる。

見どころ

大泉水

庭園の中心となる景観で、琵琶湖に見立てて、蓬莱島と竹生島が作られている。神田上水の貯水池として、江戸時代には飲料水の提供においても重要な役割を果たしていた。

見どころ

円月橋

朱舜水の設計によって作られていたと言われており、橋の丸みと水面に映る形が合わさって満月のように見えることから円月橋と命名されている。

朱舜水の出身地・浙江省の園林を彷彿するデザイン。

見どころ

内庭

園の東隅にある内庭では、スイレンが開花期を迎えると（見頃：5 月下旬～7 月中旬）、一面の水面を覆う葉の上に一面の純白の花が輝きます。午後には花が閉じてしまうので、午前中の鑑賞をおすすめします。

内庭の池から石橋、東京ドームとその倒影も楽しめる。

水の都をさらに散策しよう

▶各スポットの場所は地図上の★マーク参照

朱舜水記念碑

朱舜水（1600-1682 年）の終焉地を記念する碑です。水戸徳川家の二代藩主光圀に仕え、小石川後楽園の命名や設計に大きく関わったといわれています。1665 年から亡くなるまでを、水戸藩中屋敷（現在東京大学農学部）で過ごしていました。この碑は朱舜水の日本渡来 250 年祭にあたり建てられました。

住所……〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1 東京大学農学部弥生キャンパスの南側
弥生門開門時間…大扉 7:00-18:00（土・日開鎖）、小扉 6:00-24:30

文京区 展望ラウンジ

このルートで歩いてきた上野公園（不忍池）や東京大学周辺を一望できます。東京ドームを真下に望むことができ、現在の東京のランドマークとなっている東京スカイツリーや新宿副都心の高層ビル群も眺められます。晴れた日には富士山や筑波山まで見渡せます。夜景もおすすめです。

住所……〒112-8555 東京都文京区春日 1-16-21 文京シビックセンター 25 階
開館時間…9:00-20:30
休館日…… 12/29-1/3・5 月第 3 日曜
入館料……無料

鳳明館 本館・台町別館

静寂な本郷エリアにある老舗和風旅館です。本館は鯛や平目が施された竜宮のような大浴場を備えています。築年数は百年を超え、登録有形文化財にも指定されています。

道を挟んだ場所にある別館も風情があり、庭を楽しめます。都市の煩雑を忘れさせるような宿泊施設です。

住所……〒113-0033 東京都文京区本郷 5-10-5
電話番号…03-3811-1181
WEB サイト……http://www.homeikan.com

東京都水道歴史館

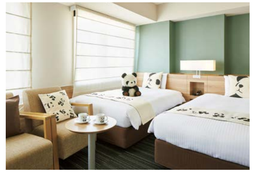
江戸の上水道や木樋（もくひ）、古文書などの資料展示のほか、長屋の再現空間、明治以降の馬水槽や貯水池、ダムなどの資料・実物・模型展示とアニメーション・人形劇上映を通して、江戸・東京における「水」の歴史を紹介しています。屋外に江戸時代の水道管・神田上水石樋（せきひ）も展示されています。

住所……〒113-0033 東京都文京区本郷 2-7-1
開館時間…9:30-17:00（入館は 16:30 まで）
休館日……毎月第 4 月曜（月曜が休日の場合はその翌日）
入館料……無料
WEB サイト……http://www.suidorekishi.jp

mitsui garden hotel
Ueno

「上野で静かなくつろぎを」
三井ガーデンホテル上野

駅からのアクセスが良く、上野や周辺エリアの観光にも便利。
そのほかビジネスやレジャーなどと幅広く利用でき、
大人気のバンダルーム® もあります。



三井ガーデンホテル上野
所在地◉〒 110-0015　台東区東上野 3-19-7
問い合わせ先◉ 03-3839-1131
交通◉地下鉄上野駅 1 番出口から徒歩 1 分
URL ◉ https://www.gardenhotels.co.jp/ueno/

JTB 感動のそばに、いつも。

日本を手ぶらで楽しもう!
LUGGAGE-FREE TRAVEL

JTB、パナソニック、ヤマトホールディングス 3 社でスタートした LUGGAGE-FREE TRAVEL は、外国人旅行者の荷物を、オンライン手続きで簡単に全国の主要な宿泊施設や空港に配送することで、手ぶら観光を支援する全国対応のサービスです。多言語された Web サイト上でご予約でき、また荷物手続きも QR コードをご提示いただくだけのとても簡単で、しかも安全な配送サービスが訪日外国人の旅行をサポートします。

公式 HP

Tokyo Dome City

街歩きのあとは、東京ドーム天然温泉 スパ ラクーアで、
からだを癒しませんか?
露天の檜風呂炭酸泉やフィンランドサウナが大人気。
スパ ラクーアで心もからだもデトックス。

東京ドーム天然温泉 スパ ラクーア
住所◉東京都文京区春日 1-1-1
東京ドームシティ LaQua5 ～ 9F（フロント 6F）
電話◉ 03-3817-4173　営業時間◉ 11:00 ～翌朝 9:00
※浴室のご利用 翌朝 8:30（露天風呂 7:30）まで
※最終入館 8:00
休館日◉ 2018/10/1（月）・2（火）　※設備点検・整備のため、休館日を設けさせていただく場合がございます。
URL ◉ https://www.laqua.jp/spa/

朝日信用金庫は
地元の一員であることを胸に
お客さまの幸せに貢献してまいります。

ジモピース
街の鼓動に敏感です
朝日信用金庫

本 店／台東区台東2－8－2
本 部／千代田区東神田2-1-2
TEL.03(3862)0321
http://www.asahi-shinkin.co.jp/